

大安寺 護寺会だより

平成二十二年一月三日発行第三号

発行責任者

大安寺護寺会理事長

北村 耕一

大安寺 本堂正面 9月中旬

新春のご挨拶



大安寺護寺会会長

大安寺住職

押見 俊哉

二〇一〇（平成二十二）庚寅年頭新春を迎え、謹んで大安寺檀信徒の皆様のご清祥と万福多幸をご祈念申し上げます。

檀信徒の皆様には、日頃より菩提寺であります大安寺の護持の為に、ご理解とご協力を頂いておりますことに、改めて感謝申し上げます。

元旦は一日、一月、一年の始まりの朝という意味で「三朝」と言い同じく元旦のことを「三元の日」とも言います。

初日の出の様子を表現した禅語に「日の出でて乾坤輝く」があります。文字通りに、元旦の日の出の風景を描写しているのと同時に、この「日」は「仏さま」を指し、仏法の光明が世の中全てに満ちあふれているさまを示しています。仏国土ぶつこくどの現成した世界です。

仏の真実の世界は、喜びや悲しみ、楽しさや苦しさの中で生きているこの現実をおろそかにして、そ

こからかけ離れた所に何か崇高なものを求めても、結局虚しい結果に陥ってしまうのだと思います。

本年は、「先代住職七回忌・先々代の五十回忌」の年にあたります。

九月の両祖報恩法要の折に年回法要を勤める予定ですが、私の長男の大俊も十歳となり、得度の要件を満たす事となりますので「出家得度式」を行い、先代・先々代に対する報恩行としたいと考えております。

また、檀信徒の皆様の「在家得度式」も行います。後日皆様方にご案内を差上げますが、み仏さまのお弟子となるべく志を立て、生前戒名を受ける大切な儀式です。檀信徒の方は、生前に戒名を受けられるが本来の形です。この勝縁に得度されることをお勧めするものです。

さて、会として護寺会の年会費の納入方法を「郵便振込み」から「口座自動引落し」への変更を皆様にごお願いして所です。

納入忘れ・事務作業軽減の為、引き続きご変更をお願いいたしますので、ご理解とご協力をお願い申し上げます。

本年が皆様にとって素晴らしい年であることを重ねて祈念申し上げます。

平成二十二年 元旦

平成二十二年七月からのお寺の行事

緋恩衣許状伝達式

この度、九月八日両祖報恩会（開山忌）法要にあわせて、前宗務所長老師より、緋恩衣の許状伝達式が行われました。僧侶が身につける大衣（衣）の色で住職としての実績を積み、資格を賜ることで着用できるようにあります。

僧侶が身につけているものに大衣（衣）とお袈裟があります。どちらにも様々な色や模様があります。

得度をして、僧籍に入って修行時代までは、どちらも黒です。立職という式をして初めて色のお袈裟がかけられます。同時に転衣をして色の衣が着れるようになります。一言で色の衣といってもたくさんあります。又、宗派によって全く違いますが、同じように考えないで頂きたいのですが、住職になって晋山結制の式をして初めて、緋（赤）の衣が着れるようになります。

その後は衿元と袖口が、黄、紫、白の三色の一衣になつていひおんえる緋恩衣、こうおんえ黄恩衣、せきしおんえ赤紫恩衣と変わっていきます。



孟蘭盆会

お盆とは、インド古代語のウランバンが音訳された後略されたものです。逆さに吊るされた苦しみという意味合をもっており、あの世で苦しんでいる亡き人・祖先も私たちが供養のまこととを捧げることによって救う事ができるという教えが行事となつたとされています。



両祖報恩会

両祖とは、曹洞宗を開かれた道元禅師（建長五年八月二十八日寂滅）、発展の礎を築かれた瑩山禅師（正中二年八月十五日寂滅）のお二方を示します。

この日、いずれも太陽暦では九月二十九日となることから、お二方を偲んで、全国の曹洞宗のお寺では檀信から、お二方を偲んで、全徒の人々と共に法要を営み報恩の心をささげます。



秋季彼岸会

九月秋分の日を中心に一週間を秋彼岸として、先祖供養を行う大切な仏教行事です。

仏教では夕陽が沈む西の彼方に極楽があるとされてきました。

その極楽に居られます、ご先祖様のより成仏をお祈りしくようの行事を行いました。



釈尊成道会

十二月八日は、お釈迦様が悟りをお開きになられた日です。二九才の時より六年の歳月の苦行の末、人として生きる真の道を悟られました。

お釈迦様が「御仏」となられたこの日こそ仏教の起源といえます。

曹洞宗で、お釈迦様の苦行を偲び十二月一日より八日明朝まで一年で最も長い坐禅の行を行います。臘八接心ろうはつせっしんといひます。



恵庭幼稚園お泊り会

毎年、恵庭幼稚園では大安寺において一泊二日のお泊り会を行なっています。親元からはなれて皆と、お寺に泊るので、子供達にとって大きな体験かもしれません。

大安寺の広間で皆と泊る。元気ですね！

朝は早くから外で先生の指導のもと体操をします。



大安寺チャリティー寄席

十二月八日午後一時四〇分から大安寺大広間において「大安寺チャリティー寄席」が行われました。入場は無料でチャリティー募金活動でした。主催は天瑞山大安寺、共催、社団法人 落語芸術協会・社団法人 シャンティ国際ボランティア会でした。

落語 真打、三遊亭 遊之介 師匠

「笑いすぎました」

マジック、小泉 ポロン さん

「不思議」「なぜ？」



大安寺理事会の活動

仏旗幕はり、受付、納骨堂の清掃、発行物の袋づめ等お寺の行事に支障の無い様に活動しました。



大安寺 施設管理委員の活動

施設管理委員による大安寺屋根の塗装修理、靴棚の修繕、駐車場のラインの修理、大安寺庭木（樹木）の管理等、忙しい年でした。

施設管理委員の小玉進吉さん、佐々木八一さん、三浦勝美さん、ほんとうに御苦労様でした。



大安寺の屋根を塗装修理する委員さん。



修繕された靴棚、多くの人が来てもこまりません。

婦人会の活動

三月十五日 総会

五月二十七日

教区総会（千歳市 日航ホテル）
六月七日

研修旅行（朝里川温泉 日帰り）
七月二十九日

管区講習会（札幌市 中央寺）
十一月二十三日

忘年会・歳末助け合い

各法要寺の食事準備、参詣者の接待、九月の両祖報恩会では、寺院接待を行っています。

来年（二十二年）は、婦人会創立四十周年ですので、会員全員で御祝いしましょう。



梅花講の活動

二月七日 総会

三月二・三日

教区主催講習会（登別第一滝本）
六月十日

特派講習会（安平町 瑞雲寺）
十一月九・十日

宗務所奉詠大会（定山溪ビューホテル）
十二月四日 忘年会

毎月二回、練習を行い、各

法要寺に奉詠しています。
新年度から四名の新しい講員さんと共に、増々研鑽に精進致します。

又、随時、講員さんの募集をしておりますので、お気軽にお問い合わせ下さい。



お地蔵さま



顧問 杉山 陽三

大安寺護寺会

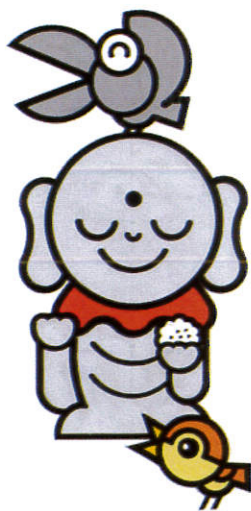
南部隊の奥に金比羅と呼ばれた地区があり、伐採作業が盛んなころ、冬になるとバチバチと言う馬そりで、材木を運搬していた。

材木の運搬には事故もあり、金比羅地区には六地藏さんが安置されていた。古いもので明治時代からのものらしい。だれが安置したかわからない。そのうち材木の運搬道路が変わったため、六地藏さんもそのままになったが、大正六年頃に六地藏さんを大安寺境内にうつし小さなお堂を建てた。

私の若い頃は、全村から寄附を募り毎年七月二十三日、二十四日に地藏祭りが盛大に行われ、草角力、歌舞伎等があり、出店も多く出たのです。

六地藏さんが大安寺の境内に来てから、戦没者等の地藏さんも多く預り、平成十二年七月十四日に今の新しい地藏堂を建て安置する様になったのです。現在も毎年七月二十四日に大安寺に

おいて地藏供養祭が行われている。地藏堂には六地藏さんの他に十六の地藏さんが安置されています。又、大安寺の土地を守る神様もまつられています。



大安寺 瓦版

「永代供養」

後を継ぐお子様がいない方お子様にご先祖供養等の負担をかけたくない方など将来的に、ご先祖様を守っていく事が出来なくてもお寺では皆様方に代わって永代にご供養いたします。

本堂永代供養位牌壇にご位牌を安置しご供養いたします。詳しくは、大安寺まで。

「在家得度式」 お申し込みのご案内

来る九月七・八日両祖報恩会法要の折に「在家得度式」をおこないます。

この式は、み仏の十六条の戒法を頂く儀式であり、檀信徒として生前に受戒するのが本来の姿であります。

お寺から後日、お申し込みご案内を送らせていただきます。

是非、この際にご検討賜りたくお願い申し上げます。

「坐禅の集い」「読経・写経の集い」のご案内

本年より、お寺を会場にして「坐禅」と「読経・写経」の二つの集いを定期的に開催いたします。

初めのうちは堅苦しいものではなく「坐禅でも組んでみたい」「お経を勉強したい」「写経をしてみたい」と思考の方々の集いとして始めたいと思います。

お寺からの別紙の開催日程表の日時に行いますので、どうぞどなたも気楽にご参加下さい。



護寺会費「自動払込手続き」のお願い

大安寺護寺会では、本年度より年会費徴収方法に、会員各家の口座より自動的に引落しされる「自動払込み」を取り入れていくこととなりました。

先般、先ず郵貯銀行のご口座からの「自動払込利用申込書」を送付し、手続きお願いした所ですが、残念ながらまだ一部の方しかお申し込み頂いておりません。只今、銀行口座からの引落しも取り扱い出来るよう準備を進めております。

払込み忘れや会計事務作業軽減の観点から、会員の皆様の自動払込みへの変更手続きに対し、ご理解ご協力をお願い申し上げます。

広報部

ご意見ご感想をお寄せ下さい。

〒061-1424
恵庭市大町4丁目 2-25
大安寺 広報部 あて
Fax 0123-33-8005
メールアドレス
daianji_gojikai@yahoo.co.jp